

ALPS処理水の処分に関する

安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2022年11月

販促·魅力発信

- 東北よりも南に生息していた魚のチダイは暖水性魚種であり、水揚げ量は堅調に伸びている一方、認知度が低く、平均単価が安いことから地方ではあまり利用されていない。
- そうした中、**未利用魚の活用を促進するため、新商品開発を実施**し、経済産業省において専門家派遣を支援。
- 具体的には、**地元の水産加工業者が中心**となり、加工が難しい**チダイの切り身を使ったお茶漬けの開発を実施**し、**本年9月より、製造・販売を開始**。
- 本取組は、地元メディアにおいても取り上げられた。

未利用魚を活用した新商品開発の事例







- 値がつかず、未利用魚となっている塩竈市魚市場に水揚げされる傷物マダラについて、新商品開発を実施し、経済産業省にお いて専門家派遣を支援。
- 数量が少なく、料理手法が限られている傷物の特徴を踏まえ、**地元の水産加工業者が中心となって活動する「海の宝物プロ** ジェクト」の一環として新商品開発に取り組み、「塩竈フィッシュバーガー」を開発。令和4年11月に試験販売を行った。
- 現状限られている用途・販路を広げることで、少しでも魚価をあげることを狙いとしており、**本取組は日刊水産経済新聞においても** 取り上げられた。
- 今後、マダラの他、傷物として水揚げされることが多いヒラメ、カレイ、アンコウ等の**他の魚種についても、新しい利用方法について検** 討を進める予定。

未利用魚を活用した新商品開発の事例







三陸地域の水産品・水産加工品の魅力発信

- 三陸が誇る「牡蠣」の県内外消費を拡大していくため、「三陸魚介プライド 牡蠣フェア」を11月1日~12月31日の期間で開催しており、経済産業省としても開催を支援。
- 「三陸魚介プライド 牡蠣フェア」のもと、**仙台エリア(70店舗)や関東エリア(11店舗)**において、**宮城県・岩手県の「三陸牡蠣」の特徴を理解し、その特性にあったメニューを各店舗オリジナルで提供している**。
- 飲食店と生産者とをつなぎ、より深い理解と共感を消費者と共有するべく、本牡蠣フェアの開催に向けては、本年9月に**飲食店を対象とした産地ツアーを複数回実施**。
- なお、2023年2月頃には、「三陸魚介プライド わかめフェア」を実施予定。
- こうした取組を通じ、三陸地域の水産品・水産加工品の魅力発信を継続していきたい。

牡蠣フェアの模様







- 三陸の魚市場から加工・流通までのスキームを多くの消費者に現場に来ていただき体験してもらい、安心とおいしさを消費者の 声から広げていく新しい広報として、水産加工事業者のOpen Factoryを実施予定であり、経済産業省において専門家派遣 を支援。
- 具体的には、水産加工業者へのOpen Factoryの実施に向けたヒアリング調査を実施し、安心とおいしさを消費者にPRする旅行 商品の造成と販売を実施する予定。
- 水産Open Factoryにおける、受入れ事業者である水産加工事業者等の現状や課題、コンテンツの強み等をレクチャーするため、 旅行代理店向けのOpen Factory事業説明会に先立ち、**現地見学会を11月21日、22日に開催**。旅行代理店が生産者とつ ながることで、生産者の思いや製造工程等、モノづくりや地域の魅力を伝える事ができるツアーの造成が期待できる。

Open Factory事業のイメージ







Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

- 経済産業省の「6次産業化等へ向けた事業者間マッチング等支援事業」(以下、販路開拓支援事業)において、福島県産品の販路拡大に向けて、小売り・イベント等による販売促進支援や企業間取引拡大に向けたマッチング支援をおこなっている。
- 販路開拓支援事業において、11月にグランディオ立川にて福島県産品の販売会を実施するとともに、水産加工事業者と流通事業者のマッチング支援を行い、11月に5件の成約事例あり。
- 引き続き、こうした支援を通じて福島県産品の販路拡大を進める。

グランディオ立川 ふくしまフードフェア

- 2022年11月16~22日の4日間、グランディオ立川(東京都立川市)にて、水産加工品を含む福島県産品の販売会を開催。
- 商品の認知度向上と販売機会の創出、並びに販売会を通じて得た消費者のニーズや声を支援事業者にフィードバックすることを目的に実施。
- 水産加工品、農産加工品、伝統工芸品等、62事業者の 商品(292商品)を販売した。











販路開拓支援成果(事例1)

- 11月に岩下商店のミニさつ ま揚げ(カニ入り)が首都 圏34店舗展開するスー パー全店にて販売開始。
- 都内 9 店舗に展開する スーパーと成約。12月から 全店にて販売開始予定。



▲販売商品(ミニさつま揚げ (カニ入り))

販路開拓支援成果(事例2)

- 11月7日から海神のしま ほっけ開きが都内7店舗 展開する飲食店と成約。
- 12月から数店舗にて販売 開始予定。



▲販売予定商品 (シマホッケの炊き込みご飯)

- 本年10月、道の駅あいづ湯川会津坂下にて、福島県主催の「旅するふくしま物産展」が開催された。特設スペースにおいては、「夕 コシュウマイ」や「ホッキ飯」といった水産加工事業者が取り扱う商品が販売され、機構職員も販売をサポート。 当日は、多くのお 客様にご来場いただき、TVメディア取材なども通じ、福島県産品を広くアピール。
- また、10月22日には、新地町釣師防災緑地公園キャンプ場にて、機構の支援事業者である**浜福さまが、「地域の伝統・魅力発** 信事業」を活用し、「ふくしま浜キャンプ飯モニターイベント」を開催。キャンプ参加者は新地町の新鮮な魚介類を使った料理を作り SNSで情報を発信。この模様が11月16日のNHKの全国放送「おはよう日本」で取り上げられた。







11/16放送 NHKおはよう日本「ふくしま浜キャンプ飯」









- 福島相双復興推進機構は、11月4日、5日に相双地域の農産物・水産物を活用した食のイベントと新商品開発により、関係 人口の拡大、風評払拭の情報発信、食材の高付加価値化を実現することを目的として、アウトドアオフィス&福島の食を堪能 するFood Camp体験ツアーを開催。
- 首都圏の会社員を中心に29名が参加し、トラフグや木戸川の鮭、ヒラメ、川俣シャモなど相双地域の食材を使ったアウトドアレストラ ンやたき火を囲んだアウトドアオフィスにおいて**地元キーマンたちとの異業種交流等を行い、相双地域の食の魅力発信を行った。**

アウトドアオフィス&FoodCamp体験ツアーの紹介



<1日目>11月4日(金) <2日目>11月5日(土) 7:30 朝食

15:40 JR常磐線「広野駅」集合・貸切バス乗車 15:32に広野駅に到着します。ご参加者各自のご都合で集合

16:00 天神岬スポーツ公園へ移動 アウトドアオフィスタイム 18:00 Foodcamp (夕食) スタート 地元キーマンなどとの異業種交流 20:00 焚火を囲んだデザートタイム 21:30 終了。天神岬スポーツ公園内「展望の宿 「キャンプサイト」泊、もしくは「Jヴィ レッジ」泊

※ Jヴィレッジ街泊の場合は送迎付

(現地移動の貸切パス代、4日のFoodCampによる夕食代を含みます。現地までの往復交通費と宿泊代、 5日の厚食代、伝承館入館料は各自ご負担下さい。宿泊費(1泊額食付8.800~10.010円)はお遊びいただく宿 により異なりますので、お知由以フォールの選択をお願いします。(生養前))

◎場所 福島県・楢葉町「天神岬スポーツ公園」

◎募集窓口 株式会社孫の手 古記ORコードより申込後、詳細を株式会社孫の手よりご案内いたします。

申し込みフォーム

▲アウトドアレストランの様子



▲アウトドアオフィスの様子



栗のカダイフ揚げ ひたむき椎茸 鶏のファルス 常磐ヒラメのエスカベッシュ 木戸川の鮭とほうれん草のキッシュ

> 常磐もの ワタリガニのスープ ホウボウとホッキ貝 青味野菜

> > 福とらのローストふぐ マスタードディルソース

飯舘の牛 ステーキ ベリグーソース 相双 野菜のグリエ

REフォンダンショコラ 温かいショコラソースとベリーソース



▲福島相双地域の食材を活かしたメニュー

▲案内チラシ Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

8:30 周辺散歩、テレワークタイムなど自由時間

貸切バスで相双地域のテレワークスペース・地

16:00 JR常磐線「いわき駅」到着・解散

※上記行程に若干の変更が生じる可能性がございます。

16:18発→東京駅18:43着がスムーズです。

域プレイヤーたちの拠点を訪問- 昼食 (双葉・浪 江エリアにて) - 原子力災害伝承館視察

さい。レンタカー(トヨタレンタカーなら県内各営業所まで乗 捨てが無料です)等のご予約はお早日に。JR常磐線はいわき駅

10:00 各自チェックアウト

- 経済産業省では、産業・なりわいの再生に取り組む傍ら、映画をはじめとする『文化・芸術』に着目し、今年4月、有志の若手職員で構成されたチーム(『福島浜通り・映像芸術文化若手チーム』)を結成。
- 今年7月には『福島浜通り映像・芸術文化プロジェクト』を立ち上げ、福島浜通り地域において映像・芸術文化を通じた地域活性 化施策の検討・実施を進めていく旨発表したところ、10月30日(日)、31日(月)には、東京国際映画祭内の1企画として、映画 関係者を集めた「福島浜通り映像・芸術文化プロジェクト」のトークセッション企画を実施。

セッション① 浜通りへの巻き込み 10/30(日) 12時~13時30分

・ 地域を盛り上げる手段としての映画祭 やイベントについて、国内で成功を収めている映画祭プロデューサーらを招き、 **浜通り内外の関係者の巻き込み方**を 議論。



本広 克行監督



谷賢一 劇作家•



丸山 靖博 さぬき映画祭 元プロデューサー



志尾 睦子 高崎映画祭



森谷雄 東 あすか 映画・ドラマ なみえコミュニティシネマ

セッション② 浜通りでの滞在制作 10/31(月) 18時45分~20時15分

・ 来年度予算要求中の「滞在制作支援」について、クリエイターにとっての滞在意義や、浜通りを映画人材の巣立ちの場所とするために必要な要素などにつきコメントいただいた。



犬童 一心監督



今泉 力哉監督



荒木 啓子 ぴあフィルムフェスティバル ディレクター



東盛 あいか監督

セッション③ 浜通りへの撮影誘致 10/31(月) 20時20分~21時00分

浜通りで撮影誘致の取組を始めようとされている方々、また神戸のフィルムコミッション設立に尽力された田中様をお招きし、地域で映画が制作されることの魅力や、フィルムコミッション設立までのハードルの乗り越え方についてコメントいただいた。



田中まこ ジャパンフィルムコ ミッション顧問



小波津 龍平 デザイナー・ 南相馬市在住



犬童 一心監督



馬場 立治 アートディレクター・ 浪江町でロケ誘致実績有

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見!ふくしま」の取組みの一環として、**全国ふるさとフェア2022へのキッチンカー出店やジャパンフィッシャーマンズフェスティバルと連携した「お魚まつり」の開催等の取組を実施**。
- 横浜赤レンガ倉庫で3年ぶりに開催された「全国ふるさとフェア2022」にキッチンカーを出店し、「常磐もの」等を使用したメニューの提供のほか新米や日本酒などのマルシェを開催。11月3~6日の4日間で約150,000人が来場し、福島県産品の美味しさをPR。
- また、日比谷公園で福島県産「常磐もの」の P R イベント「発見! ふくしまお魚まつり」を開催。 9 ブースを出店し、4日間で約 172,000人の来場者に、全18種類の常磐ものとお米を使ったメニュー 3 万食以上、日本酒 6 千名分を販売した。
- こうしたイベントの開催により、福島県産品の美味しさ・魅力を発信する取組を継続していく。

全国ふるさとフェア2022 (11/3~6)



発見!ふくしまお魚まつり (11/17~20)



理解醸成

- 各地での説明会の実施に加え、各イベントに参加し、廃炉や処理水について説明を行うブースを出展。 来場者の方々と直接双方向のコミュニケーションを実施。
- また、**学生を中心とした若年層に対する情報発信を強化**するため、資源エネルギー庁職員による**出前授業等を開催**。本年11月には、山形大学の学生の方々に出前授業を実施。学生の皆様からは、「原子炉の状況やALPS処理水の安全性など、正しい情報を知ることは大切だと思った」、「自分でも国のHPを見るなどして勉強したいと思った」といった声があがった。

出前授業の実施

現地イベントへの参加



R4.11.7. 山形大学の学生の方々との出前授業の様子



R4.11.6. いわきFC-鹿児島ユナイテッドFC戦 @Jヴィレッジスタジアム



R4.11.19-20. 十日市祭@浪江町



R4.11.23. ふくしまフェスティバル@名古屋

- ALPS処理水に関する詳細な情報を入手できるポータルサイトについて、多くの方に見ていただけるよう、 政府広報と経済産業省で連携し、Yahoo!ニュースにバナー広告を掲載(直近は2022年10月31日~11月6日)。
- また、消費者庁をはじめとする関係省庁とともに、立命館大学(11月4日)、東京農業大学(11月10日)の学生に対して、放射線に関するリスクコミュニケーションの講義を実施。生産者や事業者などとのパネルディスカッションを通じて、**放射線に関する食の安全対策やALPS処理水の海洋放出、科学的根拠に基づいたトリチウムの性質などの説明を実施**。

バナー広告の掲載(政府広報との連携)

放射線に関するリスクコミュニケーションの模様



2022年8月22日~8月28日掲載



2022年10月31日~11月6日掲載



R4.11.4. @立命館大学びわこ・くさつキャンパス



R4.11.10. @東京農業大学

- 本年10月26日~28日、ワシントンDCにて、IAEA・米国エネルギー省が主催した国際閣僚会議(※)が実施された。 (※)クリーンエネルギーへの移行、持続可能な開発及び気候変動緩和への貢献など、今後原子力の果たす役割について、各国閣僚や国際機関のハイレベルが考えを発表・共有することを目的とする会議。
- この中で、太田副大臣が演説を行い、原子力の位置付け、我が国のエネルギー安定供給とカーボンニュートラル実現の両立に向けた原子力の活用拡大、ALPS処理水の海洋放出を中心とした東電福島第一原発事故への対応、ウクライナ支援等について、世界各国からの参加者に向けて演説を行った。
- また、同会議の期間中、太田経済産業副大臣は、グロッシーIAEA事務局長と会談を行い、11月に実施するALPS処理水の 安全性レビューなどについて意見交換を実施。(注:安全性レビューは11月14~18日に実施済み)

21世紀の原子力エネルギーに関する国際閣僚会議等の模様







15

■ 本年11月1日、西村経済産業大臣が欧州議会対日交流議員団の表敬を受けた際、西村大臣より、福島第一原子力発電所 の廃炉に関して、安全性を確保したALPS処理水の海洋放出の取組について説明を行うとともに、EUが講じている原発事故を 起因とする日本産食品の輸入規制の早期撤廃を求めた。

西村経済産業大臣と欧州議会対日交流議員団の表敬の模様







- 本年11月28日、太田経済産業副大臣は、張宇人(トミー・チョン)香港立法会議員及び香港の食品・外食関係者と会談を行い、福島第一原発の廃炉に関して、安全性を確保したALPS処理水の海洋放出の取組について説明を行うとともに、同議員等と意見交換を行った。
- 会談は昼食会を兼ねて開催され、福島産食材を使ったお弁当を食べながら意見交換が行われた。太田副大臣からは、福島県 産品の魅力や安全性をアピールし、日本産食品の輸入規制の早期撤廃に向けて働きかけを行った。

太田経済産業副大臣と香港の張宇人(トミー・チョン)行政会議非閣僚 議員・立法会議員との会談の模様





- ALPS処理水の処分に係る風評影響の抑制に当たっては、製品の流通過程である加工・流通・小売の各段階の事業者等の皆様や、消費者の皆様に安全性を理解頂くことが重要。
- こうした考え方の下、本年11月25日、経産省企画のもと、**全国消費者団体連合会をはじめとした消費者団体の方々を対象とした福島第一原子力発電所及びその周辺地域の視察ツアーを実施**。

視察の模様





安全確保

- 11月14日~18日にかけて、IAEA(国際原子力機関)の関係者16名が訪日し、**2回目のALPS処理水の安全性に関する** レビューが行われた。第1回は本年2月14日~18日に実施。
 - (※) 来日者: グスタボ・カルーソIAEA原子力安全・核セキュリティ局調整官及びIAEA事務局メンバー7名 国際専門家9名(アルゼンチン、中国、韓国、フランス、マーシャル諸島、ロシア、英国、米国、ベトナム)。

IAEAレビュー・ミッション(第2回)の模様

議論のポイント

IAEAの国際安全基準に基づき、以下の点を議論。

- 第1回レビューミッションでも扱われた8つの項目 (※1) について、前回レビューにおけるIAEAからの指摘事項の反映状況(主に放射線環境影響評価書)。
- 本年11月14日に東京電力が原子力規制委員会に提出した実施計画変更認可申請書の内容(測定・評価核 種の見直し、改訂版放射線環境影響評価報告書等)。
 - ※1 ①横断的な要求事項と勧告事項、②ALPS処理水/放出水の性状、③放出管理のシステムとプロセスに関する安全性、
 - ④放射線環境影響評価、⑤放出に関する規制管理と認可、⑥ALPS処理水と環境のモニタリング、⑦利害関係者の関与、
 - ⑧職業的な放射線防護

今後の予定

2023年1月 第2回規制レビューミッション来日

2023年初め 第2回ミッションに関する報告書を公表

海洋放出開始前 包括報告書を公表



■ 11月18日のレビュー最終日には、今回のレビューミッションに関して、IAEAから以下のメッセージを発出。

IAEAレビュー・ミッション(第2回)におけるIAEAからのコメント

○ラファエル・マリアーノ・グロッシーIAEA事務局長のコメント

(2022年11月18日付IAEAプレスリリース)

「2022年2月の最初のミッションでの**タスクフォースの指摘はしっかり と検討され、日本の計画の改訂に反映されている**。IAEAは、提案 されている放出計画について、公平で科学に基づくレビューを継続する。」



<u>○カルーソ調整官のコメント</u>

(2022年11月18日、外国記者向けブリーフィング)

「2月に行われたミッションのフォローアップとして、我々はシステム、プロセス及び設計の安全性に関する側面、そして利害関係者の関与について議論を広げた。 **タスクフォースは、現時点では、このテーマにおいてさらなる情報は必要ないと 述べた。**(中略)このテーマについて来年結論を出すことが重要である。」

広 告

- 本年8月から、東京電力が、福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、定期的に地元紙(福島民友、河北新報、岩手 日報、茨城新聞(福島民報はチラシの折込))に広告を掲載。
- 本年11月も2回掲載しており、今後も**月1~2回の頻度で継続的に実施を予定**。

新聞への広告掲載内容(上:第8回(10月末掲載)、左下:第9回、右下:第10回)



皆さまからの声におこたえします Q 海洋生物の飼育試験は、いつまでに、何が分かるのですか? 今回の側容試験では、海水で作めたALPS処理水で飼育した海洋生物と、通常の海水で 飼育した海洋生物の飼育環境(水質、温度等)、飼育状況(飼育数の変化等)など、生育状況 に有意な差がないことを確認します。 また、国内外での過去の研究結果では「生体内のトリチウムは機能されず、生体内のトリ チウム機能が生育環境以上にならないこと」が確認されており、飼育試験でも生体内トリチ ウム濃度と海水内トリチウム濃度を比較し、検証します。 飼育状況については、飼育木椿のカメラによるWeb公開や、「飼育日誌」のホームページや Twitterの公開を通じて日々お知らせし、飼育状況については、毎月とりまとめて公表して いきます。さらに、2022年度末に飼育試験のとりまとめとして、評価を公表する予定です。 [海洋生物飼育日誌]

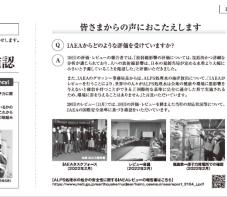




▶[トリチウムについて]



T三PCO 東京電カホールディングス株式会社 福島第一条炉構造カンパニー (473-101)



トリチウムの採取地点の増加

7カ所 ▶ 10カ所













トリチウムの採取地点の増加

○カ所 ► 9カ所